

982 I

附録 日本封建思想史年表

一七五四	寶曆 四	山脇東洋、解剖書「藏志」成る。	のと推定さる。
一七五五	寶曆 五		
一七五六	寶曆 六		
一七五七	寶曆 七	眞淵「冠辭考」出版。田村元雄江戸に始めて物産會を開く(後平賀源内屢々これを開く)白隠「夜船閑話」刻。	關東洪水、奥羽飢饉に米價暴騰し、庶民困窮す(寶曆年間には美濃、筑後の大農民一揆を初め、農民騒動昂揚を示す)。農民騒動昂揚を初め、農民騒動昂揚を初め、農民騒動昂揚を示す)。
一七五八	寶曆 八		
一七五九	寶曆 九	徂徠の高弟服部南郭致す(七七)眞淵「萬葉考別記」成る。了蓮寺文雄「非出定後語」を書いて佛教を擁護す。	エルヴェシウス「精神論」ケネー「經濟表」を著はす。ダラムベール「哲學原理」を著はす。
			七年戦争(イギリスをバックとせるプロシヤと、フランス、プロシヤ等と同盟せるオーストリーとの戦争)起る。

一七六三	寶曆 一三	平賀源内「物類品鑑」(「根柢志草」)風流志「道軒傳」を著はす。本居宣長「石上私淑言」(卒後刻)、紫文要領(寛政七年刻)等成る。	
一七六二	寶曆 一二	懷徳堂の學者五井蘭州歿す(六六)。	
一七六一	寶曆 一一	國學者吉見幸和歿す(八九)。	
一七六四	明和 元	眞淵「歌意考」成る。宣長「古事記傳」起稿。	
一七六五	明和 二	奥醫多紀安元にその建設せる醫學所(購壽館)の開講を許す。眞淵「國意考」(「新學」)成る。	
一七六七	明和 四		山縣大貳(四二)死刑、
			レッシング「ラオコー
		デイドロロー「ラモアの甥、ルソー「エミール」「民約論」を著はす。	
		ロシヤにエカテリナ二世即位。	
		フベルツブルグ講和(七年戦争の決算)成立し、プロシヤのシレジア領有最後の確認さる。パリ講和により英佛の殖民地争奪戦一應終りイギリスはフランスよりカナダ、ミンシッピ以東の北米を得、インドにおける自己權力を承認せしむ。紡績機ハークリーヴス紡績機を發明(イギリス産業革命の發端)。エカテリナ、修道院の所有地を沒收す。	

附録 日本封建思想史年表

982 I

附録 日本封建思想史年表

一七六八	明和	五	白隠寂す(八四)。眞淵「祝詞考」成る。	藤井右門(四八)獄門に處せらる。竹内式部流刑に處せられ、同年三宅島に歿す(五六)。	ン」を著はす。	スル紡績機を發明す。
一七六九	明和	六	眞淵「語意考」成る。眞淵(七三)、青木昆陽(七二)歿す。「醫事或問」成る(寛政十年刻)。	農民の徒黨を嚴禁す。	ドルバック等「自然の體系」を著はす(フラスンス唯物論の體系的叙述)。	ロシア黒海方面に進出せんとしてトルコと戦ふ第一次トルコ戦争。
一七七〇	明和	七	宣長「直日靈」を著はす。	露船阿波に漂着す。	第一回ポーランド分割。	
一七七二	安永	元	吉益東洞歿す(七二)。	田沼意次老中となる(所謂田沼時代)。	プガチエフの指導下にコサック、ウラルの夫、東ロシア農民の大反亂起る(ロシアにおける第三次の、且つ最後の農民戦争)。且つプロガチエフの亂鎮定。この頃ワットの複作用式蒸汽機關成る。	
一七七三	安永	二	杉田玄白等の「解體新書」の翻譯完了す。榮之進西洋天文書を譯す。			
一七七四	安永	三	三浦梅園「支語」完成す。			

三八六

附録 日本封建思想史年表

一七七五	安永	四	平賀源内獄死(五一)。中澤道二江戸に來りて心學を廣む。これより關東、東北に心學普及し始む(なほ安永年間には江戸に於て但徠學既に衰へ、片山兼山、井上金蛾の折衷學漸く擡頭す)。	アダム・スミス「國富論」を著はす。この頃ラバアジエー酸素の研究により燃素説を克服す。	アメリカ獨立戦争起る。ロシアとトルコ講和し、ロシア南方に領土を擴大す。
一七七六	安永	五	田村元雄歿す(五九)。	露人國後島に來る。	
一七七七	安永	六	源内「放屁論後編」を著はす。	信州高井、水内二郡の百姓代官に強訴す。	
一七七八	安永	七	宣長「葛花」(直日靈)を批判せる市川鶴鳴の「まかのひれ」を反批判せるもの成る。	露人國後島に來る。	
一七七九	安永	八	湯淺常山歿す(七四)。	上州、武州に農民の蜂起あり。	
一七八一	天明	元	藤井貞幹「衝口發」を著はす。	カント「純粹理性批判」を著はす。	
一七八二	天明	二	片山兼山歿す(五三)。伊勢貞丈「神道獨語」成る。		

三八七

一七八三	天明	三	谷口蕪村死す(六八)。	夏、淺間山噴火して死者凡そ三萬五千人を出し、諸國飢饉にて、農民一揆十數件に達し、大阪に打毀あり。	奥羽の飢饉深刻を極む。	ラゲランジュ「解析力学」を著す。	ヴェルサイユ媾和にてアメリカの獨立確認さる。
一七八四	天明	四	國學者伊勢貞丈(七〇)井上金蛾(五三)歿す。				クロムプトン、ミューイル紡績機を、カイトライル紡績機を發明す。
一七八五	天明	五	宣長、藤井貞幹の衝口發に對して「鉗狂人」を書く(文政四年刻)。				
一七八六	天明	六	心學者手島堵庵歿す(六九)。	露船蝦夷に來る。關東大洪水。田沼意次失脚す。			
一七八七	天明	七	宣長「秘本玉くしげ」成る(嘉永四年刻)。	松平定信老中となる。前年より引續き農民一揆潮發し、また江戸、大阪、京都に於て殆んど同時に激烈なる打毀行はる。			フランスに於て凶作のため年末より封建遺制の重壓に對する農民の闘争全國に起る。
一七八八	天明	八	柴野栗山幕儒となる。				フランスに於て凶作のため年末より封建遺制の重壓に對する農民の闘争全國に起る。
一七八九	寛政	元	三浦梅園「贅語」成る。梅園歿す(六七)。				フランスに於て凶作のため年末より封建遺制の重壓に對する農民の闘争全國に起る。
			中井竹山「草莽危言」を松平定信に奉る。				フランスに於て凶作のため年末より封建遺制の重壓に對する農民の闘争全國に起る。

一七九〇	寛政	二	宣長「古事記傳」出版開始。	異學の禁(朱子學以外の儒學に對する拘束)。			ハンツマン制鋼法を發明し、冶金業大いに發達す。
一七九一	寛政	三	尾藤二洲藩儒となる。多紀氏の醫學所(漢方)を官立醫學館とす。	林平一「海國兵談」を刊行して捕はる。	外船撃攘令出づ。		フランスの國民議會憲法を完成して解散し、憲法による立法議會成立す。第三身分「内の對立」漸く顯著となる。第二次トルコ戦争終る(かく「エカテリナ女帝」の在世中にロシア領土著しく擴大さる)。
一七九二	寛政	四	聖堂學問所の制を定む。		露使ラツクスマン我漂る。沿海の諸侯に令し外船に備へしむ。		フランス、オーストリアの干渉に對して宣戰す。民衆蜂起して王制顛覆し、立法議會解散して國民集會成立す。フランス革命に對する列國の第一次聯合成立す。
一七九三	寛政	五	林子平禁錮中に歿す(八一)。	高山彦九郎自殺す(四四)。	尊號事件に付き中山愛親等關東に下向す。		國民集會の左翼派(ジャコボン黨)ジャコボン黨を倒す。ジャコボン黨の下に民主的憲法制定され、一切の權力

一八〇〇	寛政 一二	折衷派の儒者細井平洲(七四)、本居宣長(七二)歿す。	伊能忠敬の測地開始。		
一八〇一	享和 元	志筑忠雄「曆象新書」完成す。	間宮倫宗樺太を採検す。		
一八〇二	享和 二	山片蟠桃「夢の代」を起稿(同書の跋には文政三年とあるは完成は約二十年後なるべし)。中澤道二(七九)、蘭醫前酒良澤(八一)歿す。	蝦夷奉行(後の箱館奉行)を設く。	シエリング「ブルーノ」を出す。	イギリスに於て労働者の結社禁止を命ず。ナポレオン、マレンゴに於てオーストリー軍を破る。
一八〇三	享和 三	高橋作左衛門(四一)、中井竹山(七五)、國學者荒木田久老(五九)歿す。	露使レザノフ長崎に來り通商を要求す。	ダルトン原子量の實驗的確定に成功し、原子論を科學的に確立す。	ナポレオン、オーストリーと媾和す(第二次聯合崩壊)。
一八〇四	文化 元	平田篤胤「呵妄書」を著はして太宰春臺を批判す。	露使レザノフを歸らしむ。	カント死(八一)。	ナポレオン皇帝となる。ナポレオン法典成る。
一八〇五	文化 二	篤胤「鬼神新論」を書く。			對佛第三次聯合成立。トラファルガルにてフランス艦隊撃滅さる。ナポレオン、オーストリーを破り、これを屈

一八〇六	文化 三	篤胤「本教外編」を草す(未定稿)。			崩壊)。
一八〇七	文化 四	皆川淇園(七四)、柴野栗山(七四)歿す。	露人蝦夷に寇す。		ナポレオン南ドイツ諸邦をライン同盟に組織して支配下に置き、更にプロシヤと戦つてこれを破り、ベルリンにおいて大陸封鎖令を出す。
一八〇八	文化 五	蘭醫桂川甫周歿す(五九)。	房相海岸に砲臺を築く。英船長崎に來る。間宮倫宗(林藏)樺太及びシベリヤ探検に出發す。	カバニス死す(五三)。ファイヒテ、ドイツ國民に告ぐ一を以てドイツ人の民族主義を高調ラマルク「動物哲學」を著はす。	チルヂット媾和によりプロシヤ多くの領土を失ふ。
一八〇九	文化 六	上田秋成(七八)、小野蘭山(八一)歿す。			ナポレオン、ポルトガンを征服す。
一八一〇	文化 七	僧圓通「佛國曆象編」を以て佛敎的宇宙論を擁護す。			ナポレオン、スペインの反抗とイギリスの援軍に悩まざる。
一八一二	文化 八	村田春海歿す(六六)。天文臺譯局シヨメル百科辭典の翻譯に着手す。	露船利尻島に來る。外船打拂を令す。	アヴォガドロ分子の科學的概念を確立す。	スペインにおける戦争に乗じてオーストリー再び立ち上り、ナポレオンこれをウグラムに破り、屈服せしむ。

一八一三	文化 一〇	大槻玄澤(七一)、蒲生君平(四七)、尾藤二洲(六九)歿す。尾藤二洲海保青陵「洪範談」刊行。同「稽古談」成る。	松平定信隠居す。農民一揆昂揚す(十二年)。	ヘーゲル「論理學」を著す(完結は一八一六年)。	ナポレオン退位し、エルバに流され、ウイーン會議開かる。	ライプチヒにてナポレオン、聯合軍に破らる。
一八一四	文化 一一	佐藤信淵江戸を追放さる。江漢「地理談」この頃成る。	伊能忠敬の沿岸地圖完成す。ロシアと國境を定む。		ナポレオン、エルバを脱しワロテ、セントヘレナに流さる。	
一八一五	文化 一二	西教寺潮音「摺裂邪網編」および「金剛索」を刊行して富永仲基と「赤保保」の著者服部天遊の佛敎批判を難す。			ナポレオンは革命前の國境に歸り諸國の領土再分配さる。	
一八一六	文化 一三	岡田寒川歿す(七一)。	英船琉球に來り通商を求む。	ヘーゲル「エンチクロペデー」を著はす。	フランスの王政復古、メッテルニヒの神聖同盟結成を始め、封建的	
一八一七	文化 一四	中井履軒(八六)、杉田玄白(八四)、古賀精里	英船浦賀に來る。		反動の攻勢始まる。	

一八一八	文政 元	伊能忠敬(七四)、司馬江漢(八一)歿す。	英船浦賀に來り通商を求む。	ランカシャに機業労働者の大ストライキ起る(この頃より一八二〇年迄イギリスにおける労働者の闘争昂揚す)。
一八二〇	文政 三	篤胤「印度藏志」を草す(未定稿)。		ギリシャ獨立(トルコからの)戦争起る。
一八二一	文政 四	堀保巳(七六)、山片蟠桃(七六)歿す。		
一八二二	文新 五	宇田川榕菴「菩多尼謂經」刊行(リンネの植物學始めて紹介さる)。	百姓一揆瀕發す。	
一八二三	文政 六	立原翠軒(八〇)、太田南畝(七五)、富士谷御杖(五六)歿す。	英船寶島を掠す。	
一八二四	文政 七	篤胤「古史成文」刊。信淵「混同祕策」を著はす。佐藤一齊「言志録」を著はす。篤胤「古道大意」刻。	外船撃攘を令す。英船陸奥沖に來る。	イギリスにストライキの波再び高まる。フランスにシャルル十世即位し、反動の攻勢強化す。労働者の運動に讓歩し、強硬な法を撤廢す。結社禁止法を撤廢す。恐慌襲來と共にストライキ闘争下火となる。
一八二五	文政 八	太田錦城歿す(六一)。		サンシモン「新キリスト敎」を著はし、同年歿す(六六)。

著はす(最初の物理學「天文學以外の」書)

一八二六 文政 九

藤田幽谷歿す(五三)。岩垣松苗國史略、山陽日本外史成る。

一八二七 文政 一〇

信淵「經濟要録」成る。

一八二八 文政 一一

シボルト事件起る。高橋作左衛門(一世)蘭醫士支領を初と通獄に下さる。蘭學者等三十餘人

一八二九 文政 一二

高橋作左衛門獄死(四六)。坪井信道江戸に蘭學塾を開く。

一八三〇 天保 元

沼田順義「級長戸風」を著はして宣長と市川鶴鳴の論争を批判す。

高良齋、戸塚静海等二十三人更にシボルト事件に連坐して捕はれシボルト追放さる。

ロバチエフスキ「非ユークリッド幾何學」を公表す。

ヘーゲル歿す(六二)。サンチレルとキューヴィエー、生物進化の有無に關して論争す。

この年イギリスに初めて鐵道敷設さる。十二月ロシヤにデカブリスト(十二月黨)の反亂あり。その失敗と共族に十年代以來先進的貴族の秘密結社によつて至行はれたる自由主義の運動頓挫す。民主主義の運動頓挫

フランスに騷擾起り、初めてパリケード戦行はる。

フィラデルフィヤに労働黨生る。

列國の干渉によりギリシヤの獨立確認さる。

イギリスの労働者「國民協會」を組織して選挙權獲得運動を旺盛ならしむ。

ライエル「地質學原理」を著はす。コンプト「實證哲學講義」を發表し始む(一八四二年に完了)。

ファラデー「感應電流」を見出す。

七月フランスに革命起り、シャルル十世退位して、リッピエ、金融貴族の支配開始さる。革命は諸國に波及し、ベルギー人はオランダに最初獨立し(ベルギーはオーストリア領、次にオランダ領となりオランダ領となれるもの)、ロシヤ領ポーランド、イタリヤにも國民革命運動起る。ドイツにおいても三十年代以來民主主義は急速に生長す。リオンに労働者の暴動起る(労働者の最初の獨立的政治闘争)。イギリスで選挙法改正(選挙權擴張)。

一八三一 天保 二

頼山陽歿す(五三)。高野長英「醫原樞要」を著はす(最初の西洋生理學書)。

一八三二 天保 三

青地林宗(五九)、本居太右衛門(七八)歿す。伊東玄朴江戸に蘭學塾を開く。

一八三三 天保 四

奥羽凶作、關東大洪水にて、播州一揆を初め諸國に打毀的暴發あり(十七日)。百姓一揆激發す。

一八三四	天保 五		大鹽平八郎「洗心洞剖記」刊行。	ベリンスキイ批評活動を開始す。この頃ロシヤにもドイツ哲學と結合せる自由主義の思想運動起り、この年その中心たるオガリヨフのグールプ流刑に處せらる。	リオンの労働者及び騒擾す。プロシヤを中心としてドイツ諸邦ドイツ關稅同盟を結成す(上から第一の統一)。ワイトリング等を中心とするドイツの亡命革命家、亡命家同盟を組織す(一八三六年に「正義家同盟」と改稱)。電報初めて使用さる。
一八三五	天保 六		大鹽平八郎「洗心洞剖記」刊行。	シエトラウス「ヤソ傳」を出し、ヘーゲル學派を左右兩翼に分裂す。ロシヤの民主主義者へルツェン等流さる。	
一八三六	天保 七		帆足萬里「窮理通」を著す。	フリーリエ死す(六六)。フリーシキン死す(三九)。	イギリスに恐慌始まり労働者の政治運動再び運動す(チャーチキスト)。
一八三七	天保 八		平田篤胤の高弟生田萬大鹽事件に刺殺されて同志と共に越後柏崎の代官所を襲撃す。國學者鈴木腹死す(七四)。	諸國大いに飢え、米價暴騰し農民騒動瀕發(十二回)し、大阪に打毀行はる。諸國に騷擾止まず、大坂に平八郎救民の旗をかかげて諸所の大鹽黨と稱して一揆を催すものあり。儉約令を出す。	
一八三八	天保 九		緒方洪庵大阪に蘭學塾を開く。高野長英「夢物語」、渡邊華山「憤機論」を書い	ダーウイン進化論の思想成る。	

一八三九	天保 一〇		心學者柴田鳩翁致す(五七)。宇田川榕菴「舍密開宗刊行(化學移入の端初)。	高野長英、渡邊華山逮捕され、小關三英(五三)自殺す。華山は在獄に於て長英は終身禁獄の判決を受く。	フランスにブランキの指導する秘密結社暴動を起す。ブランキ等投獄さる。
一八四〇	天保 一一		國學者藤井高尙致す(七七)。鈴木春山「西洋兵制」を著す。	シユヴァン細胞を發見す。	
一八四一	天保 一二		國學者屋代弘賢致す(八四)。渡邊華山蟄居中に自殺す(四九)。平田篤胤秋田への退居を命ぜらる。この頃正司考祺「經濟問答秘録」を書く。	ヘルバルト死す(六六)。フオイエルトの本質」を著し、ドイツの思想界沸騰す。	チャーチキスト運動絶頂に達す。「ライオン新聞」の主筆となる(最初の彼の社會的活動)。
一八四二	天保 一三		人情本禁止。爲永春水死(五四)。高島秋帆檢學さる。	幕府の攘夷主義や、軟化す。	
一八四三	天保 一四		香川景樹(七六)、平田	阿部正弘老中となる。	「ライオン新聞」閉鎖さる。

一八四九 嘉永 二

黒住教祖黒住宗忠(七
一) 橋守部(七〇)、
岩垣松苗(七六) 歿す。
外科、眼科以外の蘭方
の採用を官醫に禁ず。
この年オランダ人初め
て種痘法を傳ふ。

英船浦賀に来る。

一八五〇 嘉永 三

佐藤信淵歿す(八二)。
高野長英捕吏に襲はれ
て自殺す(四七)。

海防の勅諭再び幕府に
下る。

共産主義者デガミー歿
す(四八)。

四月 ロシヤ、オースト
リヤを助けてハンガリ
五月 ドイツに帝國憲
法戰の民主主義者、ブ
地方の先頭とする反
動の敗北にフラン
義の敗北にフラン
六月 ナポレオン三世
マ共和国を倒す。

一八五一 嘉永 四

佐久間象山江戸に兵學
塾を開く。

米船漂流民中濱萬次郎等
を琉球に送還す。

一八五二 嘉永 五

帆足萬里歿す(七五)。

露船下田に来る。
錢屋五兵衛獄死(八一)。

モレシヨット「生命の
循環」を著はす。

一八五三 嘉永 六

高島秋帆許され、再び
登用さる。

米使ベリー浦賀に来る
露使ブーチャチン長崎
に来る。

ヘルツェン、ロンドン
へ出版所を設けロシヤ
への人民主義宣傳を繼

ナポレオン三世皇帝と
なる。
チャーチスト運動消滅
(これより永くイギリ
スに闘争的労働運動發
生せず)。

一八五四 安政 元

蘭方禁止を解く。

品川沖に砲臺を築くを
令し、諸士をして洋式
砲術を學ばしむ。
大船建造の禁を解く。
ベリー再び来る。米國
と、次いで英、露と條
約を結び開國を約す。
この年吉田松陰渡米せ
久間象山も連坐して捕
へらる。

續す。
ビュヒネル「力と物質」
を著はす。

クリミア戦争起る。

一八五五 安政 二

本居内遠(六四)、江川
太郎左衛門(五五)、廣
瀬淡窓(七四) 歿す。
藤田東湖(五〇) 江戸の
地震にて災死。
九段に洋學所を設く。
(翌年番書調所と改稱。
文久三年開成所と改
稱)。
大國隆正「本學學要」
を著はす。

江戸に講武所、長崎に
海軍傳習所を設けて洋
式兵術を學ばしむ(後
者、安政六年廢止)。
ぬ、安政六年廢止)。
毀鐘鑄砲の勅令下る。
オランダとも米、英、
露と同等の條約を結
ぶ。

フオークト「迷信と科
學的の世界觀を排撃す」。

パリ講和會議(クリミ
ヤ戦争の決算)開かる
(翌年初め終結)。

一八五六 安政 三

二宮尊徳歿す(七〇)。

ハリス下田に来る。

この頃ベッセマー法發
明さる。

一八五七 安政 四

東堂一條歿す(八〇)。
この頃大橋訥庵「蘭邪
小言」を著はして洋學
排斥論を高唱す。
佐藤信淵遺著「垂統秘

一八五八 安政 五

詩人梁川星巖(七〇)、萬葉古義の著者鹿持雅治(六八)歿す。洋學の奨励者島津齊彬(薩摩侯)歿す(五〇)。福澤諭吉江戸に蘭學塾を開く。傍ら英學に志す。

一八五九 安政 六

佐藤一齊歿す(八八)

一八六〇 萬延 元

安積良齋歿す(七〇)。種痘館を官立として種痘所と改む(文久三年)。醫學所と改稱、開成所と共になれ(東京帝大の基礎となるもの)。

井伊直弼大老となり、米を初め、蘭、露、英との條約を結印し、佛攘夷派及び幕閣改調論者(橋本)の運動漸く熾烈となり、井伊一漸くの反對派分子七十餘名を逮捕す安政の大獄。諸國との貿易開始。一橋慶喜、水戸齊昭等謹慎、塾居等を命ぜらる。前年逮捕されたる梅田源次郎(四四)獄死、頼三樹三郎(三五)獄死、左内(二二)刑死し、吉田松陰(三〇)刑死し、その他何れも苛酷なる處分を受く。米國に使節を送る(同年歸國)。井伊大老水戸浪士に暗殺さる。

オーエン歿す(八八)。

ダーウイン「種の起源」を著す。

五〇年代に流行の俗流唯物論に對する反動の代表者たるシヨールペンハウエル逝く(七三)。

イタリーのオーストリアからの獨立及び統一のための戦争起る。

一八六一 文久 元

福澤諭吉遣米使節に從つて渡米す。福澤諭吉、福地源一郎、松木弘安、箕作秋坪等遣歐使節に通譯として從ふ。加藤弘之「隣草」を書く。

和宮降嫁。遣歐使節出發す(翌年未歸國)。

一八六二 文久 二

西周、津田慎一郎等和蘭留學を命ぜられ出發す。大橋訥菴捕へられ、出獄の日急死す(四七)。

この年極端なる攘夷派の浪士等坂下門に老中安藤信正を襲ひ、薩藩にて勤王志士を掃蕩し(寺田屋騒動)、薩摩の士生品川の英人を斬り、浪士品川の英領公使館を焼く等の事件勃發す。

スペインサー「第一原理」を著す。チエルニシエフスキ「農奴解放の不徹底に憤慨し農民に對する檄文を書して捕へらる(後流刑)。

イタリー統一ほじ成りサルヂニア王ヴィクトル・エマヌエル、イタリー王となる。ロシアに農奴解放令公布さる。アメリカに南北戦争起る。ビスマルク、プロシヤ首相となる。

一八六三 文久 三

緒方洪庵(五四)、箕作阮甫(六五)、國學者山崎美成(六七)、會澤正志(八一)歿す。國學者鈴木重胤暗殺さる(五一)。矢野玄道「玉鉉物語」を著す。

將軍家茂上京。砲撃し、薩藩鹿兒島灣にて英艦と戦ふ。五條に藤本鐵石等大和五條に平野國臣等生野に討幕の兵を擧ぐ。七卿都落ち三條實美等七卿都落ちす。プロシヤと條約を結ぶ。水戸藩内の反對派筑波

ロシア領ポーランドに武装反亂起る。ラッサーレル全ドイッ労働者同盟を創立す。

ラッサーレル死す(四〇)。

シユレスウイッヒ及び

一八六五	慶應元	(五四) 本草家飯沼慾齋(八四)致す。加藤弘之「交易問答」を著はす。開國主義を唱ふ。年末西周等歸國す。	山に擧兵し、次いで京都に池田屋事件、蛤門合戦あり。幕府長州征伐を令し、英、米、佛、蘭の聯合艦隊下關を砲撃す。長州幕府に屈服す。	マックスウェル電氣磁氣學を確立す。	ホルシユタインに分離(デンマルクからの)運動起り、プロシヤ及びオーストリア出兵してこれを奪取す。第一インターナシヨナル成立す。平權證明さる。
一八八六	慶應二	高島秋帆致す(六九)。西周「萬國公法」を譯す。福澤「西洋事情」初篇を出版す。	將軍家茂薨じ征長軍停止す。孝明天皇崩御。この年百姓一揆及び打毀猖獗を極む。	ランゲ「唯物論史」を著はす。	普墮戦争起り、プロシヤ勝利して北ドイツ聯邦を組織す。ジエネバに第一インタナシヨナルの第一回大會開かる。
一八八七	慶應三	鹽谷岩陰致す(五九)。矢野玄道「獻芹腐語」を上書す。	明治天皇踐祚。將軍慶喜大政を奉還し。王政復古の大令布告さる。	「資本論」第一卷著はる。	ロンドンに第一インタナシヨナルの第二回大會。
一八八八	明治元	柳川春三等中外新聞を發刊。官再興の布告。神祇分離令發布。	鳥羽伏見の戦。討幕令。五箇條御誓文の發布。江戸明渡し。東北鎮定。幕臣北海道に走る。	ヘッケル「自然創造史」を著はす。	ウイヘルヘルム・リヒプタネヒト「勞働組合同盟を作る」(翌年「社會民主黨」と改む)。ブラッセルに第一インタナシヨナルの第三回大會。

(附録II)

索引

(事項・人名)

事項索引

(但し思想史上の用語を主とす)

ア行

- アヴェロエス主義、アヴェロエス派 四六、六四
- アニミズム(一的觀念・表象) 二五、三三、三八、四三、一〇二、一三七、三二六、三二七、三二〇
- アラハニゴト(顯事、顯露事、顯明事) 二六二、二六四、二六六、二七一、二七三、二九〇
- 阿耨耶識(阿賴耶識) 一二二

- イ 伊勢神道 七二、一二二、二七七、二七八
- 一向宗(淨土眞宗をも参照) 一三一、二三九、二四七、二四九、二五一、二五三
- 一心 二二、二三、一二八、一三七、一四七、一五〇
- 一神教、一神論 九、一一、二八二、二八五、二九五
- 一念三千 六九、一二七、一二九、一三七、一四五、一四六
- 忌部神道 一二三
- インド哲學 九、二八

索引(事項)

陰陽

- 陰陽五行説 二七四
- 陰陽思想 二六九
- 陰陽道 六九、一二二

運命論

二六五

エ

- 厭世主義(一者)、厭世思想、厭世觀 九九、一〇二、一四二、一三一

オ

- 御嶽教 二九二

カ行

- 快樂説 一八八、一九〇、一九四、一九五、二〇二、二〇四、三〇九

四〇九

索引(事項)

客觀的觀念論 一八、一九、三四、三五、八〇、一三七、一五〇
 カミゴト(幽事、神事) 二六二―二六四、二六六―二七三、二七五、二九〇
 觀念論(一者) 三十七、二〇、二二、二八、三五、三六、四一―四五、六七、七四、八四、八五、一二七、一二九、一三七、一四八、一五三、一七九、一八四、二一〇、二二二、二五七、三〇〇
 觀念論的汎神論 一七一―一九、二二、二三―二五、二八、三一、三二、三五

キ

氣 三四、三七―四四、五三、五四、一五〇―一五二、三一六―三一九
 機械的唯物論 一八四
 氣質 七八、二二二
 鬼神(一論) 三八、四〇―四二、七四、一五三、一九四、一九六、二三八、二三九、二四五、二五四、二五五、二六七、二八三―二八五、三一六、三一九
 起信論 二二、二九、七〇、一二七、一二八
 氣先理後說 四三

教外別傳 七一、七二、一〇八
 教派神道 一〇五、二五八、二七七、二九一―二九五
 享樂主義 五五
 禁欲主義 一〇二、一九〇、二〇四、三〇一

ク

具舍宗、具舍論 一二七、一五七
 空也念佛 一三九
 黑住教 二九二

ケ

經驗論(一者)、經驗主義 一八三、一八五、一九六、二〇四、二四五、二九七
 形相 一二、一三、三六、三七、四六―五一、一五一―一三八
 形而上學的方法 三、四
 形而上と形而下 二二七―二二九、二二二
 啓蒙(一期) 一四、六七、七八、八五、二二〇
 華嚴(一宗)、華嚴哲學 二二、二九、七〇、一二七、一三一―一五七
 現實的汎神論 一七、二二
 嚴肅主義 一九四

原子論的社會觀 一八八

コ

古學(一派) 三五、一七八、一八二―一八六、一九〇、一九九、二二二、二四二―二四四、二七四、三三三―三三九
 古學主義 一八五、一、九一、一九六
 五行 三五、四〇、四四、一五〇―一五二、二七八、二八四、三二六
 國學(復古國學をも含む)、國學者 五六、八一、一七八、一九九、二〇八、二一四、二二五、二二九、二二二、二三六、二五三、二五四、二五六―二六〇、二七四、二八六、二八七、二九四、三〇一、三二〇、三二八、三三二、三三三、三四二
 國家主義 一七二、一八七、一八八、二一五
 克己說 一九五、二二二
 國民主義(ナショナリズム) 二八七、二八八、二九一、三〇六
 個人主義(ムをも参照) 一八八、一九四、一九八
 吳太伯說 三〇五、三二八
 古道 二五八、三二一、三二二、三二九、三三三
 古道主義 二〇一、二〇七、二八六、二八七
 幸福說 一九五、二〇三

索引(事項)

古方醫學 八二、二九七
 古文辭學 二四五、三三五
 合理主義 二三九、二四五、二五七
 功利主義 一八六―一九六、一九八、二二五
 五輪 一三二、三一五
 金光教 二九二

サ行 サ

左翼ヘーゲル派 二〇
 山王神道、山王一實神道 七一、一二一、一五九、二三一
 三界唯心 一四九
 三千世界 一二八、一二九、一三七、一三九、一四四
 三千大千世界 一三七、一三九、一四九
 三論宗 一三一、一五七

シ

自然科學主義 一八六、二九七、三〇〇、三二〇
 自然科學的唯物論 二五、八五、二〇二、二〇三、二〇五
 自然權(自然的人權) 六六、一九二、一九五、一九八、二〇三、二二二、二二二
 自然主義(ナチュラリズムをも見よ) 一一、五五、五六、六一、一九九、二〇一―二〇五、二二五、二二五、二二二

自然崇拜 二四、二五、二九、一〇三
 自然法 一九一
 四大 三一五、三二八
 十界互具說 一二九、一三一
 實學 一八三、二三八
 實學主義 二二一、三二〇
 實驗主義 三〇八
 實證論、實證哲學 八五、二二一、三二〇
 實相論 一二八
 實體 七、八、一三、一四、一九、二二、二三、三〇
 三三、三四、三七、三八、四〇、四二、四六
 四七、四九、五一
 實體的形相 四六、四七、五〇
 質料 一二、一三、三六、三七、四七、四九、一五一
 (第一質料)、三一八
 思辨哲學 一七
 寂靜主義 五九、六一
 主觀主義 一八、一〇八
 主觀的觀念論 一八、二九、三四、七一、八〇、一二七、一三七、一五〇
 一五一一八、一八三
 宗教改革 七一
 修驗道 七一

朱子學(一者)、朱子學派 八〇、八三、一七八、一八二、一八五、一八七、二一〇、二三六、二四三、二四五、二四八、二五〇、二五四、二五八、二五九
 二九八、二九九、三〇七、三二一、三三二
 朱子學的合理主義 二二一、二三八、二五四
 自由思想 六六、一一六、二五三
 自由主義 一九四、二一五
 十住心 一三〇、一三一
 呪術 三三、四三、六八、七四、七五、一〇三、一一三、一二七、一三三
 主情主義 二〇二、二〇四
 情意主義 二〇四
 植物靈魂 一五一、三一八
 所產的自然 四八、四九、六四
 淨土教、淨土宗 二七、七〇、九五、九六、九八、九九、一〇六、一〇七、一〇九、一一九、一二一、一三三
 四、一四四、一四七、一五三、一五七、一六四
 一七一、二三二、二六五、二六九、二八五
 一〇七、一〇八、一一九、一五七、一六七、一七一、二三三、二三三、二三九、二四七、二四九、二五一、三二四
 淨土真宗 九一二五、三二四
 心學(石門心學のみ) 一七八、二〇七、二一五

神學的觀念論 一七、二〇三
 神學的無神論(唯物論) 一六、一七、二一
 進化論的快樂說 二〇四
 眞言(宗) 七一、一一三、一二二、一二七、一三〇、一三一、一三三、一四六、一六二、一六四、一六六、一七一、二六六
 眞言神道(兩部神道をも参照) 七一
 仁濟學派(堀河學派をも参照) 一八六、一八七、二四八
 神社神道 二九一、二九三、二九四
 眞宗(淨土眞宗を見よ)
 新人文主義 二〇九、二一一
 新スピノザ主義 一〇
 眞如 二二、二四、三四、四四、一二八、一三七、一五〇
 神祕主義(者) 四四、七二、一九六、二四五、二六六、二八四、二八七、三三一
 新プラトン主義 一五、四六
 人文主義 二〇九、二一一、二二三
 新ヘーゲル主義 二〇
 垂加神道 一六〇、一七八、二三七、二三八、二五四、二

スコラ學派、スコラ哲學 一三、一五一、三一八
 スピノザ主義 九、一四、一七、一八、二〇
 性 六五、二七八、三二二
 性惡說 三二、三四、三五、五五、七六、七八、一九一、一九二、一九五、二二二、二二三、二五六
 成實宗 一九八
 性善說 一五七
 三二
 生物學 二〇四
 生物學主義 二〇四
 性理學 二八四
 世界靈魂 一二、三七
 積極哲學 一〇
 絕對的觀念論 一八、一二七
 折衷學(一派) 三五、一八二
 折衷主義 五、六
 先驗的觀念論 一七
 禪(僧)、禪宗 三四、七〇、七三、九六、一〇二、一〇三、一〇八、一二四、一四九、一五二、一五七、一五八、一六四、一六六、一六八、二二三、二二二

八、二三六、二四〇—二四二、三二〇、三二一
三二四

ソ

宋學、宋儒 三四、三七、七一—七三、七五、七六、七九、
八〇、八二、一四九—一五三、一九〇、一九一
一九四、二二二、二四三—二四六、二五四、二
六八、二八四、三〇七

即心是佛 一四九
ソフィスト 一九五

徂徠學(一派) 六〇、一七八、一八二、一八五—一八八、一
九〇、一九一、一九四、一九六、一九七、一九
九、二〇〇、二〇七、二二〇、二四四、二四八
二五一、二六五、二六六、二八四、三〇七

タ行 タ

太虚、太和 三三三
太極 三三三、三四
大社教 二九二
太伯說(吳太伯說を見よ)
台密 一一三、一二七、一三三、一六三、一七一
多神教 九、二八五、二九〇、二九一、二九五

立川流 二〇四

子

直指人心・見性成佛 二四、一〇八、一五〇
中庸主義 三二二
直觀主義 一〇八、一〇九、二〇四

テ

天 二九、三二、三四、三八—四二、五三、五四、
六八、一八七、二二四、二四三、二八〇、二八
四、二八八—二九〇、三〇九、三一六、三一七
三一九

天臺(一宗)、天臺哲學 二二、六九、七〇、七一、九七—九
九、一一三、一二二、一二三、一二七、一二九
一三一、一三七、一三九、一四五、一五二、一
五七、一五九、一六二、一六四、一六六、一七
一、一七三、二二二
天理 七八、二〇三、二二〇、二二二、三〇七、三一
二
天理教 二九二

同一哲學 二二、二九、一二七

ドイツ浪漫主義 一一

道教 六八、六九、七一、七三、七七

獨立學派 一八二

トテミズム 二五、一〇三

動物靈魂 一五一、三一八

ナ行 ナ

ナショナリズム(ナリスト) (國民主義をも参照) 一七三、
二〇六

ナチュラリズム(自然主義をも参照) 五六、五八一—六〇

ニ

西田哲學 八六

日蓮宗(日蓮をも参照) 七〇、九九、一〇八、一〇九、一一

七、一二一、一四七、一五八、一六五、一六八

一七二、一七三、二二三、二三四、三五二

日蓮主義 一七二、一七四

如來藏 一二二

ネ

念佛宗(淨土宗、淨土眞宗をも参照) 九八

索引(事項)

能産的自然 四八、六四
農本主義 三三九

ハ行 ハ

バラモン教 二八三

汎神論 五—四五、一四五、二〇二、二八四

反主知主義 二〇四

萬法唯心 二四、一四九

ヒ

ヒタゴラス學派 三六、六二

ヒューマニズム 一一六、一八四、二〇〇、二〇一、二〇三

二二〇、二二三、二三三

平等觀、平等主義 一〇九—一一二、一二四、一二九、一二

〇
平田神道 二〇〇、二七五、二八一、二八六、二八七、二

九〇、二九一、二九三

フ

不可知論(一者) 一九六、二〇四

四一五

復古國學(國學を見よ)

復古神道 三五、一二四、二三七、二五六、二五七、二八〇、二八四、二八七、二九二、二九五、三二二

武士道 九二、一二七、二四二

不受不施派 一六五、一七三、二二三

物活論(一の觀念) 一四、二二、二四、三六、三七、四一、

不立文字 一〇八

ヘーゲル主義 二二〇

辯證法 三、六二

辯證法的唯物論 四

法華神道 七一

法相宗(唯識宗をも参照) 一二七、一三一、一六一

堀河學派(仁齊學派をも参照) 一七八

本地垂迹説 七一、二二一、一五七

マ行

水戸學(一派) 一七八、二二九、二五二、二五七、二五九、

唯物論、唯物論者(自生的唯物論、フランス唯物論等をも含む)

三十七、一三、一六十二、二五、二八、三〇

三十一、三三、三五、三六、四一、四五、五三、

六二、六三、六六、六八、八三、八六、一二七

一七九、一八四、一八七、一九五、一九八、二〇〇、二〇一、二〇三、二〇四、二一〇、二一

八、二二〇、二二二、二四三、二四九、二九九

三一五、三二〇

有機體論的自然觀 二四三

有神論 七、八、一〇、一六、一七、二〇、二二、二四

三五一、三七、四九、一四五、一九六、二〇一、

二八四

融通念佛 一四〇

ヨミ、ヨミノクニ(泉、黄泉、夜見、豫美、黄泉、夜見國)

一二九、一三〇、二六一、二六四、二六八、二

洋學(一者) 八二、八三、一七八、一七九、一八六、二一六

一二二、二五二、二八九、二九八、三二〇

洋學主義 一八六

吉野神道(唯一神道) 七二、一二三、一三三、一七九、二五

四、二七八

索引(事項)

四一七

民間信仰 二九一、三四〇

民約説 二六、二九五

無宇宙論 九

無極 三〇、三三

無神論(一者) 四一七、一一、一四一、一七、一九一、二二、二

五十二、三三、六六、六八、八三、二二〇、

二四七、二五六、二九六、三二五

無明 二二、二三、四四

目的論 五一

ヤ行 ユ

唯我論 一八、三四、三六

唯氣論 四二、四三

唯識宗、唯識論(法相宗をも参照) 二二、二八、二九、二二

唯心論 二五、二七、二八、一四九

唯一神道(吉田神道を見よ)

陽明學(一派) 七三、二八三、二八七、二九〇

三四、三五、七一、八〇、八四、一七八、一

八二、一八七、二二〇、二三六、二三七、二三

九、二四〇

樂觀論 一〇二

蘭學 二九六、二九八

理 三四、三七、四四、一五〇、一九六、一九七、

二一〇、二三八、二四四、二五五、二六三、二

八三、二八四、二八六、三〇三、三〇八

リアリズム 二〇三

理氣(一論) 七一、八〇、一二七、一五〇、一五一、二八四

理性宗教 一一六

理性的靈魂 一五一、三一八

理先氣後説 八〇

律宗 一五七、二三三

兩部神道 七一、一二一、一五七

輪廻(一説) 一〇二、一二八、一三〇、一四九、一五三、二

三八、二四〇、二四五、二七四

ル

ルネッサンス 六、七、一二、一四、一五、二二、四八、六
五、七八、一一六、一八〇、一八三、一八四、
一八六、一九九、二〇一、二〇五、二二〇、二
二二

ロ

老荘、老荘思想、老荘學派 三一、三三、三五、五〇、五一
五四、五六、五八、六〇、六一、六八、六九、
七二、七六、七九、一五二、一九一、二〇一、
二〇二、二三七、二三九、二四二、二五八、二
六五、二六六、三一〇、三二四

人名索引 (歴史上の人物のみ)

ア

會澤正志 二五一、三四一
安積澹泊 二五一
淺見綱齋 二三八、二五八、三二六
麻田剛立 八二、八三
足利尊氏 一六五、一六六
アジタ 六八
綾部綱齋 八二
新井白石 四二、八一、一八三、一九七
二一七、二二九、二三三、二
三八、二四一、二四五、二五
五、三一七
アリストテレス 五、一三、二二、三六
三七、四六、五〇、六二、六
四、七六、一五一、三一八
安藤昌益 四四、一七九、一八一、二五
二、三〇〇

索引(人名)

イ

池田光政 二四二
石田梅巖 一七八、二二二
伊勢貞丈 二七八
一條兼良 一五九、二六七、二六八
伊藤仁齋 一八三、一八五、一九一、一
九二、二四三、二四五、三〇
八
伊藤東涯 八二、一八三、一八六、二四
五
井上圓了 二五、二六、二二二
井上哲次郎 二二二
忌部正通 一二三
ウ
ウインチ(レオナルド・ダ) 二〇一
ウインデルバント 六、七、一九五
宇佐美水 一九六

ト部兼俱

一二三、二六六

エ

榮西 九六、九七、一六四、一七三
惠心(源信を見よ) 四〇、三一九
淮南子 四〇、三一九
エビクロス 六三
エムベドクレス 三一八
圓觀 一六六
エンゲルス 五、七、一一、一五、一六
二〇、一一六
オ
荻生徂徠 三四、三五、三九、七六、八
一、八二、一八三、一八五、
一八七、一九〇、一九九、二
一四、二四三、二四八、二六
五、二八三、二八四、三〇七、
三〇八、三二九、三三三、三
四一九

索引(人名)

三四、三三五、三三七、三三九
 織田信長 一六六、二三一、二三九
 太田南畝 二三四
 王先 三〇、四二、五三、五四、三一八—三二〇
 大橋訥庵 二一九
 王陽明 三四、八二
 カ
 貝原益軒 八一、一八三
 海保青陵 一九六一—九九、三〇七
 荷田春滿 八一
 加藤弘之 八五、三二〇
 カムパネラ 六
 鴨長明 九九
 賀茂眞淵 五六—六〇、一七八、二〇五
 二五八、二五九、二六五、二八〇、三〇五、三一三、三三三—三三五
 蒲生君平 三三七—三三九
 カーライル 一一、一六
 ガリレイ 一五、一八四
 カント 六七
 韓非 一九八、一九九、三一九
 キ
 キエルケゴール 二〇
 清澤滿之 二二
 北畠親房 一一二、一二四
 行基 一六一
 ク
 空海 六九、七一、九五、一〇二、一三〇—一三三、一三六、一三八、一六三、一六五、二二八—二五一、二六六
 クセノフアネス 六
 熊澤蕃山 八〇、二四〇—二四二、二四四、二四九、二五四、三二五—三三一、三三四
 クロイチエ 二〇
 クロムウエル 六五
 コ
 玄昉 二五一
 建禮門院 一〇〇
 公顯 九五、九七
 皇圓 一二三
 孔子 七四、七六、八二、一五〇、一八九、一九三、二四七
 後醍醐天皇 一六六
 コペルニクス 一五、六四、八二、一八四、二〇一
 コーヘン(ヘルマン・) 一一
 コムト 八五
 ケ
 桂菴 一四九
 契沖 八一
 ケブレル 一五
 源空(法然を見よ) 二〇
 源信 九五、九七、一〇六、一三四—一四〇、一四二—一四五、一四七
 四二〇

サ

最澄 六九、九四、九五、九七、一〇二、一二七、一六二、一六五—二五一
 坂上田村麿 三三九
 佐久間象山 四二、四三、二一九、二二二、二八九
 佐々木高成 二七八
 佐田介石 一五三
 佐藤信淵 二九二
 佐藤直方 二三七—二三九、三四四、二五七
 シ
 シェリング 一〇、一一、一四、一六一—一八、二二、一二七
 慈圓(慈鎮) 九七、九八、二六七、二六八
 慈覺 一七一
 子思 三一
 志筑忠雄 八二、二九八
 阿馬江漢 八三、一八六、二一八—二二二
 索引(人名) 四二二
 〇、二九六、二九八、二九九
 三〇一、三〇九—三二〇
 一三三
 四二、四三、二五六一—二三八
 二四八、二五〇、三一七、三一九
 八二
 シュトラウス 一九、二〇
 シュライエルマツヘル 一一
 荀子 一八七、一九二、一九八、一九九、三一九
 商鞅 一九八
 正司考祺 二二三、二三五、二四九、二五〇
 白河上皇 一六六
 申不害 一九八
 親鸞 九六、一〇四、二〇七、一一〇、一二四、一四四、一四五—一四七、二四七
 ス
 菅原道眞 一三九、一四〇、一四二、一四九
 セ
 杉田玄白 四九
 鈴木雅之 二九七
 スピノザ 七、一一、一三一—一七、一九四、六五、六六、一六六—二二〇
 スペンサー 二〇四
 セ
 關孝和 八一、一八三
 世親 二八
 セネカ 一四二
 善導 一〇六
 ソ
 蘇我馬子 一五一
 ソクラテス 三六、三二八
 莊子(老莊をも参照) 三一、三八、三九—五三、五五、三二二、三二九
 疎石(夢窓を見よ)

索引(人名)

澤庵 七一、一二七、一五〇—一五二
 竹内式部 三〇五
 天守春臺(純) 二四六、二四七、二五四
 二六五、二七八、三〇八、三一九、三三三、三三五
 谷時中 二三〇
 田沼意次 三〇一
 平忠常 八九
 平將門 八九、一三九
 田村元雄 二九六
 且丹 三一〇
 忠圓 一六六
 近松門左衛門 二二四、三〇三
 智者大師 一五二
 張横渠 三四、四二
 津田眞道 三二〇
 テ
 程伊川 三九、四二
 諦觀 一三七
 デカルト 六五、一八三—一八六
 デボリーヌ 五、七
 デモクリトス 六三
 ト
 徳川家康 一五九、二〇六、二三二、二
 三二
 徳川光圀 七四、二四八、二五一、二五
 二
 徳川義直 二五四
 徳川頼宣 二四八
 道鏡 二五一
 道元 一〇一、一〇四、一〇九、一一
 一、一五〇、一五八、一六九
 道綽 一四七
 トマス・アキナス 三一八
 宮永仲基 二五五、二八三
 豊臣秀吉 一六六、二三一
 トーランド 六十九、一三三、一四
 ナ
 中井竹山 八三、二四九、二五〇、二五
 七、二九八
 中井履軒 八三、二九八
 中江兆民 八、八五、三三〇
 中江藤樹 八〇、二四〇、二四三
 中澤道二 二一一
 永田徳本 八一
 南里有鄰 二九二
 ニ
 二位尼 一〇〇
 ニコラウス・クザヌス 六、六四、二〇
 〇
 西周 八五、三二一、三三〇
 西川如見 八一
 西村茂樹 二三
 日蓮(日蓮宗をも参照) 九七、一〇四、
 一〇四、一〇五、一〇七、一
 一〇、一一一、一一二、一一
 二、一二四、一四五—一四七

野中兼山 二四八
 ハ
 ハイデックガー 二二〇
 バウエル(ブルーノ) 一九
 白隠 一五二
 バイクリ 一二七
 橋本左内 二一九、二二二、二八九
 服部中庸 二七二、二八八
 服部南郭 二四五、三〇七、三一九
 ハビアン(不于齋巴鼻庵を見よ) 二九
 馬鳴 二九
 林羅山 七二、七九、八〇、二二九、
 二二六、二二七、二五九
 ヒ
 平賀源内 八二、八三、一八六、二一八—
 二二〇、二九六—二九九、三
 〇—三〇九、三二二、三二
 索引(人名)
 廣瀬淡窓 四二、四三
 フ
 フイヒテ 一八、一九
 フォイエルバッハ 五、一六一—一八、二
 一、二〇一、二〇三
 不于齋巴鼻庵 一五一
 福澤諭吉 八五、八六、二二二、二五五
 二五七、三〇一、三二〇
 藤田東湖 二五一
 藤田幽谷 二五一
 藤原純友 八九
 藤原惺窩 七二、七三、八〇、一四九、
 一五一、二二四、二三〇、二
 三六
 藤原秀郷 三三九
 ヘ
 ヘーゲル(ヘーゲル主義をも見よ) 五、九
 一一二、一六一—二〇、二三、
 三七、七八、一二七
 ベーコン 六五、一八三—一八六、二二
 〇
 ベーメ 六
 ヘラクリトス 三二八
 ベンサム 一八七、一八八、二二二
 ホ
 墨子 二九
 保科正之 二四八
 ホッブス 五、一三、一八四、一八七、
 一九二、一九五、二二〇
 四三三

索引(人名)

北條高時 八九
 北條時頼 一六九
 法然(源空) 九六、九八、一〇四、一〇六、一一〇、一四四、一四五
 本多利明 一八六、二一九、二二〇
 松平定信 二四九、三一四
 曲直瀬道三 八一
 マヒダーサ・アイタレヤ 六八
 三浦梅園 八二
 源實朝 二〇五
 源義仲 一六五
 源頼朝 八九、一五九、一六五
 三宅尚齋 二三八
 宮崎安貞 一八三
 ミュンツェル 一五、一一六
 三善清行 六九、一四九
 妙藥 九六
 ミル・ジョン・スチユアトト 一八八、
 文 一八四
 モーア(トマス) 一八四
 孟子 三一、三四、三八、三九、七
 六、八二、一五〇、一五二、
 一八二
 本居宣長 三五、五六、五八、六〇、二
 〇一、二〇三、二〇六、二五
 八、二六六、二六八、二七三
 二七五、二八一、二八三、二
 八四、二八六、二八八、二九
 〇、三三五、三三七
 八二、二九八
 森尚謙 七四、二五一
 モルガン 一四五
 文 一六六
 矢野玄道 三四二
 山鹿素行 一七八、二四二、二四三
 山縣大貳 三〇五、三〇六、三三八
 山片蟠桃 八三、八四、一八六、二一八
 一二二、二五〇、二八九、
 二九六、二九八、三〇一、三
 二〇
 山口管山 四三
 山崎闇齋 二三〇、二三七、二三八、二
 四八、二七七、二七八、三三
 九
 山路愛山 一八七
 吉川惟足 二四八、二五四、二七
 吉益東洞 八二、二九七
 吉見幸和 一三二
 楊朱 三一、五五
 ヨワン・シロウテ(ジエアン・シドチ) 二二七

賴山陽 一七八

李東垣 八一

龍樹 二八

利瑪竇(マテオ・リッチ) 二二九

ルカッチ(ゲオルグ) 五

ルクレチウス 六三

ルソー 五六、二〇一、二〇三

ルーテル 一五、一一六

レザノット(レザノフ) 三一四

烈公(徳川齊昭) 二五二

列子 三一、三九、四一、五二

蓮如 一六七

老子 二九、三一、三三、三六、三八
 三九、四二、四四、五〇、五
 二、五四、五七、五九、六八
 一五〇、三一

老莊(事項索引の部を見よ)
 脇坂弘道 一一三
 度會行忠 一一三

脇坂弘道 一一三

度會行忠 一一三

昭和廿二年六月十日印刷
昭和廿二年六月十五日發行

日本封建制イデオロギ
定價 金百三十圓

著者檢印



著者

永田 廣志

發行者

東京都千代田區神田司町一ノ八
中村 徳二郎

印刷者

東京都千代田區神田神保町三ノ二五
共和印刷株式會社
代表者 對馬 好文

配給元

東京都千代田區神田淡路町二ノ九
日本出版配給株式會社

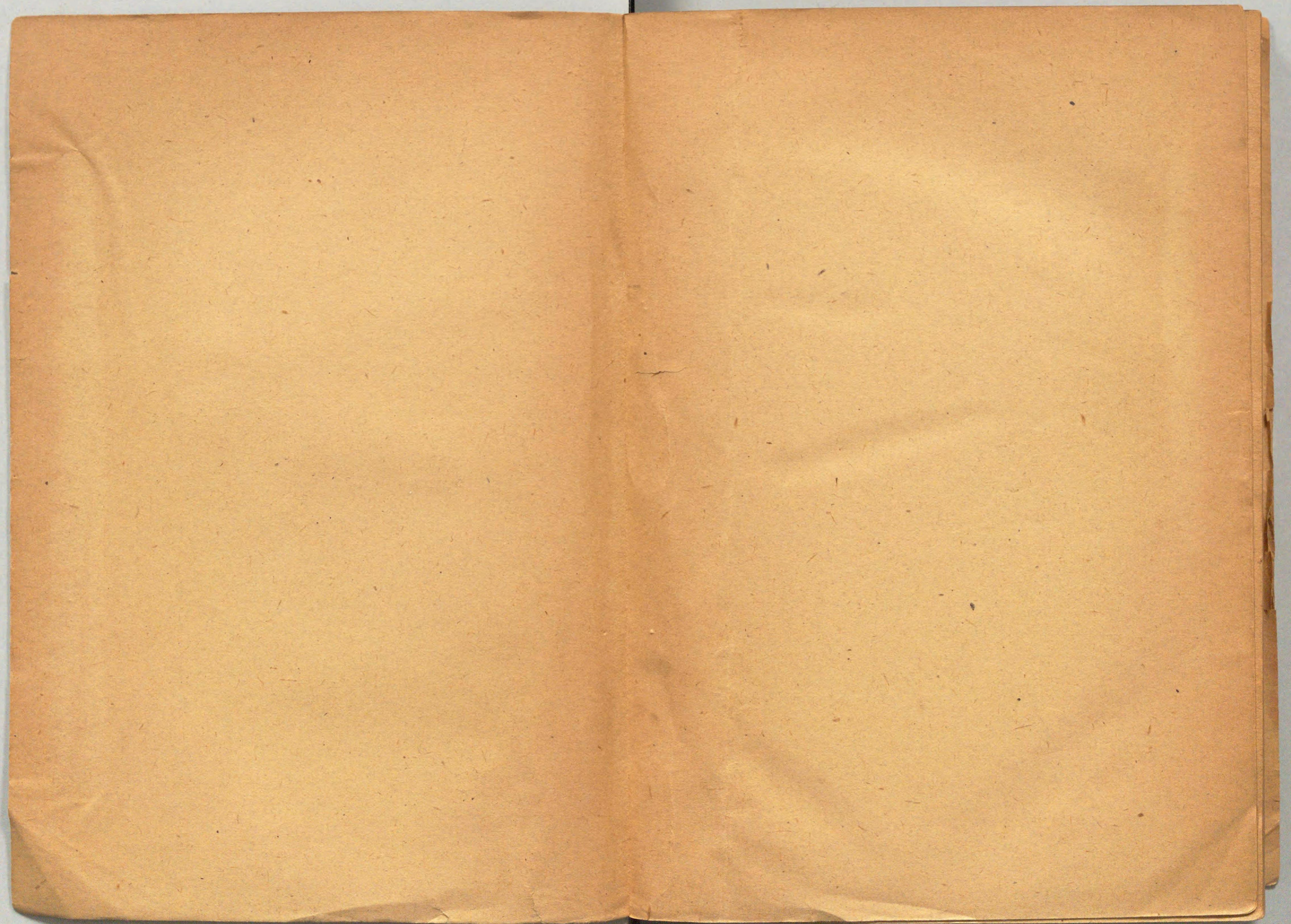
發行所

東京都千代田區神田司町一ノ八
振替東京 二五四〇〇

白揚社
會員番號A二〇八〇一四

靚丁落丁の際に本社に於て責任を負ひます

21
9
8m
I



¥130.00